

後期日程

本2023

令和5年度入学試験問題(後期日程)

小論文

教育学部
学校教育課程
幼小連携教育コース

— 解答上の注意事項 —

- 1 「解答始め」の合図があるまで問題を見てはならない。
- 2 問題冊子のほかに解答紙1枚と下書き用紙1枚がある。
- 3 解答は横書きとする。
- 4 解答紙を提出すること。
- 5 問題冊子と下書き用紙は持ち帰ること。

【問】

以下の文章は、「GIGA スクール構想」で導入された一人一台端末を学習に最適に活かす方法を例に、小学校教育が幼児教育から学ぶべきことを論じています。文章を読み、筆者の主張を踏まえたうえで、あなた自身の考えを 800 字以内で述べなさい。

一人一台端末についても、何か調べたいことやわからないことがあったなら、いつでも取り出して調べてよいということにしてはどうでしょう。かつて、国語辞典が常に机の上に出ている、わからない言葉があれば、すぐに調べて付箋紙をはさむことを習慣づけている先生がいました。その国語辞典がパソコンに変わるのだと考えれば、わかりやすいかもしれません。

こう言うと必ず「パソコンをいつでも机の上に出しておいてよいことにしたら、子どもが授業を聞かなくなる」と言う人がいるのですが、それは授業の中身が貧弱でつまらないからで、そんな時、子どもはパソコンがなくても、ノートにマンガを書いたりしているものです。つまり、パソコンを取り上げたところで、本質的な問題は何も解決しません。それどころか、たまにしかパソコンを使わせないから、子どもはその限られた機会にいろんなことを試してみたくなり、結果的に教師の指示や要求とは関係のないことをあれこれとしてしまうのです。パソコンに限らず、もっといろいろなものを子どもたちに開放し、子どもたちの都合やタイミングで自由に使ってよいことにする方が、長い目で見れば得策でしょう。

どこか斬新な感じがするかもしれませんが、幼児教育の世界では、ごく当たり前のこととして日常的にやられてきました。幼児たちは、自ら進んで身の回りのひと・もの・ことに関わろうとしますし、それらとの相互作用の中で実にさまざまなことを学んでいきます。幼児教育では、環境を整えることで子どもたちが展開するひと・もの・こととの相互作用を教育的により価値のある方向へと導き、それによって意図する学びや育ちを実現してきたのです。

幼児教育は、環境による教育をメインの教育方法としてきました。もちろん、それを支えているのは、すべての子どもは生まれながらにして有能な学び手だという子ども観です。

ごく普通の幼稚園の様子を見てみても、はさみやのりやセロハンテープといった道具も、折り紙や牛乳パックや毛糸などの材料も、子どもたちの判断で、いつでも好きなだけ使っているようになっていきます。興味深いのは、そうすることで子どもたちは、使い終わったらちゃんと元の場所に片付けるし、必要な量以上は取らないようになることでしょう。

もちろん、若干のポイントはあって、ある幼稚園で遊びに使う材料を一部の子たちがひとり占めにするので困っていたのですが、よく見ると供給されている材料が、子どもたちが最終的に使うと予想されるぴったりの量になっています。そこで、あり余るほどの量にしてもらったところ、ひとり占めはすぐに解消しました。必要になった時に再度取りに行けば、その時に必ず確保できるという安心感が環境整備では重要です。これは何も幼児だからでは

ありません。大人だって不安になると買い占めに走ったりします。人が自由で穏やかな心持ちでいるには、ゆとりや安心というのがとても大切なのです。

こんなふうに幼児期には自分の側から環境にアクセスしていたのに、小学校に上がった途端、すべては教師の都合とタイミングで手渡されるようになります。

「今日のはさみを使います。今から先生が配りますから、一班のみなさんだけ前にいらっしやい。あとの人たちは自分の席で静かに待ちます。」

万事がこんな具合ですから、子どもたちはもともと備わっている、そして幼稚園や保育所でたくましく育ててもらった学び手としての有能さを一気に封印せざるを得なくなり、どんどん自分の頭では何も考えないようになっていくのです。

したがって、かつては小学校入学時に通過儀礼のように行われてきた「手はお膝、お口チャック」に代表される抑圧的な規律訓練の見直しが、小学校の改革ではまず重要になってきます。生活科の授業あたりで「子どもたちが後片付けをしなくて」と嘆く先生がいますが、教師の都合で手渡されたものに子どもの意識が向かわないのは無理もないことでしょう。

五歳の時にはすでにできていたという事実と、なぜできていたのかの理由について、あらためて思いを巡らせる必要があるように思います。

出典：奈須正裕『個別最適な学びと協働的な学び』東洋館出版社、2021年、189-193頁
※出題に際して、一部を抜粋し、修正した。